

薄いガラスコーンに職人の技が光る  
「ガラスのコーンスピーカー『<sup>はりおん</sup> 玻璃音』」



2003年世界初のガラスのバイオリン、2004年ガラスチェロ・ビオラ、2006年世界初・世界最大の「ガラスの琴(中国古箏・21弦)」の製作につづき、2008年秋、「ガラスのコーンスピーカー『<sup>はりおん</sup> 玻璃音』」の製作に成功しました。この「ガラスのコーンスピーカー『<sup>はりおん</sup> 玻璃音』」はコーン(振動板)を耐熱ガラスで製作した、世界初のスピーカーです。また、職人の手吹き技術で作られた耐熱ガラス製スピーカーとしても世界初となります。



「ガラスのコーンスピーカー『<sup>はりおん</sup> 玻璃音』」はガラス製のサブウーファー1台とミドルレンジ2台、これにツイーター2台(アクリル製)を加えたスピーカーセットで構成されています。ガラス成形を行うガラス職人中心としたスタッフ23名が、約3年8ヶ月をかけて手作りで製作いたしました。特に今回、特許出願中のコーン(振動板)部分の製作では、薄さ0.5~0.8mmの薄くて割れやすいガラスの切断に、何回もの試作と挑戦を繰り返して作り上げています。通常のコーンに使用される紙などの素材と違い、ガラス素材は湿気に強く、硬度が高いため、ゆがみが少ないといった特徴があり、特に低音域では迫力のある良音をだすことができます。

2003 ガラスのバイオリン



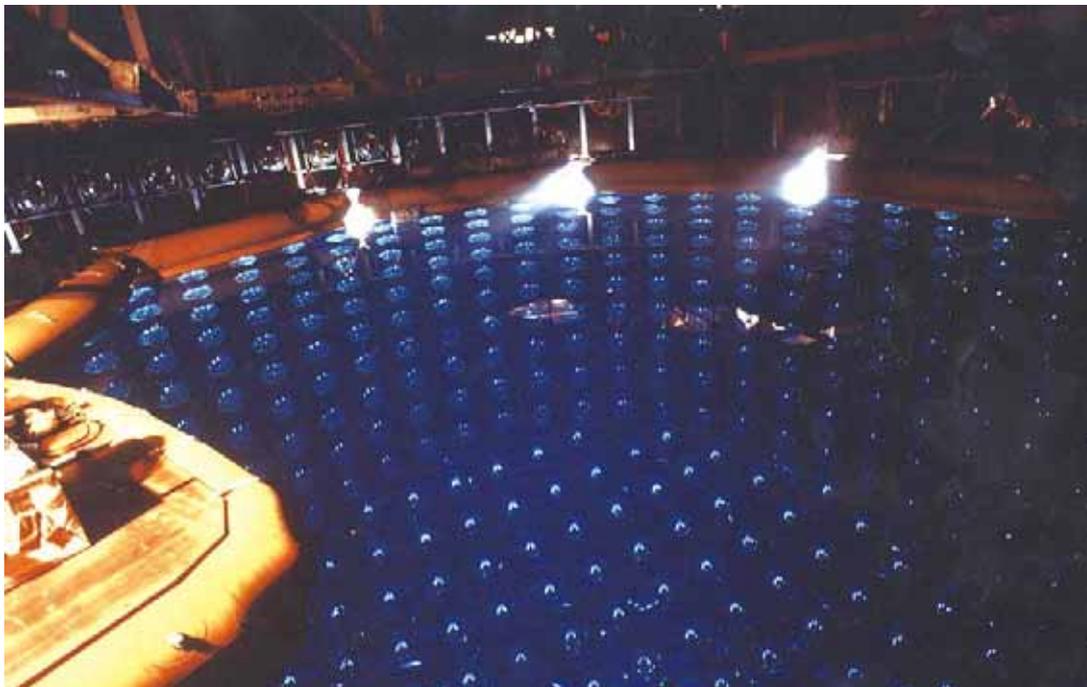
2006 ガラスの琴



2007 ガラスの尺八



## ノーベル物理学賞受賞 「カミオカンデ」



東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設提供

2002年ノーベル物理学賞受賞の、小柴昌俊 東大名誉教授の研究装置「カミオカンデ」(素粒子観測装置)に使用された20インチ径・光電子増倍管の材料は、昭和56年に当社が作成したものです。当時、直径50cm、厚さ4mmで均一にガラスバブルを作るには手吹きしかなく、しかも至難の業でした。

当時の様子について古河工場で取材を受けた内容が、NHKの人気番組であった「プロジェクトX」で2003年5月27日(火)午後9時15分～10時『衝撃のカミオカンデ「地下1000mの闘い」』と題して放送されました。